

History 新野左馬助親矩

キラリを再発見

特別編

No. 23

新野地区4つの山城

～武田軍の後方支援基地か～

新野地区には4つの山城が確認されている。新野左馬助公について長年にわたり研究した故鈴木東洋氏は、その山城にそれぞれ「八幡平の城」「舟ヶ谷の城山」「天ヶ谷の城平」「釜原城」と名付けた。どの城跡も保存状態は良く、最近では、新野左馬助公顕彰会や新野未来塾によってハイキングコースとして整備され、手軽に散策できるようになっている。

さて、この4城は、古文書などの記録に残っていないため、城の歴史は不明だが、舟ヶ谷の城山は、新野左馬助公の居城という伝承が残っている。また、現在残っている遺構の特徴(例えば二重の堀切をはじめとする堀切の多用や横堀など)や高天神城との地理的な位置関係などから、この4城は武田軍が築城、または改修したものであり、天正2年(1574年)以降の武田対徳川による高天神城の攻防戦において、武田軍の戦略上重要な策源地(後方支援基地)として使用された、という説が有力視されている。(静岡古城研究会水野茂会長からのご教示)

照会 社会教育課 ☎0537-298735



▲舟ヶ谷の城山ハイキングの様子



▲八幡平整備の様子

▲釜原城整備の様子

大河ドラマ「おんな城主 直虎」
応援プロジェクト

Atomic

暮らしと原子力

浜岡原子力発電所の
建設申し入れから50年

― 当時を振り返って ―

↓

2005年(平成17年)までに、浜岡原子力発電所は5号機まで増設されました。現在では、約3800人(うち、市内在住者は約1500人)が勤務しています。

市では、発電所立地による税収の増加や電源三法交付金(※)などを活用し、積極的にまちづくりを推進してきました。交付金は、市民会館や市立図書館アスパルなどの文化施設のほか、教育施設やスポーツ施設、医療施設、道路の整備など、多くの公共施設整備に使われてきました。

現在の発電所は、1・2号機は廃止措置作業が進められ、3・4・5号機は運転を停止しています。また、3・4号機は津波・地震・重大事故などへの対策として、安全性向上対策工事が進められています。建設申し入れから50年、これまで歩んできた歴史を振り

返るとともに、今後の原子力発電を含む日本のエネルギー事情についてあらためて考えてみてはいかがでしょうか。
※1974年(昭和49年)に制定された「電源開発促進税法」特別会計に関する法律「発電用施設周辺地域整備法」の3つの法律を基にした、地域振興や福祉向上を目的とする交付金。



▲原子力館に展示されている「50年のあゆみ」